

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第772号 平成26年7月18日

夢は牛のお医者さん

「夢は牛のお医者さん」

これは、新潟県下の児童数9人という小さな小学校に通う少女の、3頭の子牛との出会いから、獣医師になる夢を抱き、その夢の実現に向かってひたむきに努力し、そして今は獣医師として活躍する26年間を描いたドキュメンタリー映画です。この映画は、シアターキノで上映されて来ましたが、本日が上映最終日という事で、残念ながら終わってしまいます。もっと早く原稿を仕上げるべきだったと、反省しています。



1987年（昭和62年）、主人公の高橋知美さんが小学3年生の時に、彼女が通う小学校に3頭の子牛が入学して来ます。それは、その年、小学校には1人の新入生もいなかったため、校長先生がそれでは子ども達も寂しかろうと考え子牛3頭を入学させ、子ども達に世話をさせる事にしたものです。

この校長先生はじめ教師の方々の発想の面白さと、ウサギや羊ならともかく、成長すると何百キロにもなる大型の動物を子ども達に世話をさせるという事になると、危機管理上も心配な面はあったと思いますが、それを乗り越えて実現した実行力に感心します。

子ども達は、牛の世話を通して様々な事を学び成長して行きます。特に、牛は経済動物であり、世話をする牛が400kgになったら出荷する事になります。一生懸命世話をしている牛であっても、必ず別れの時が来るという厳然とした社会の仕組みを、子ども達は身を持って知る事になります。

この田舎の小さな小さな学校が行った実践教育は、素晴らしいものを子ども達に与えたと思います。

さて、知美さんは、3頭の子牛の内「強子」という名の子牛の世話を担当する事になります。ある時、この「強子」が病気になり、その世話をしている内に「牛のお医者さんになりたい」と思うようになり、以来彼女は、その目標に向かってまっしぐらに突き進み、夢を形にして行きます。

元文部科学省審議官で京都造形芸術大学教授の寺脇研氏は「最近話題の『キャリア教育』とは、単なる職業訓練教育ではない。将来、社会の中で自分の役割を果た

しながら自分らしい生き方を実現する力をつけてもらうための学びの機会を提供する重要な役割を持っている」とし、「この映画を観れば、その意義がよくわかるだろう。自分で決めた夢を実現するために必要な努力を重ねる。...それこそが真の学びである。学ぶとは何か、働くとは何か、そして生きるとは何かについて、深く考えさせる一作だ」と述べています（「夢は牛のお医者さん」プログラムから）。

知美さんの家は酪農家で、決して裕福ではありませんが、祖母と両親、2人の妹との6人が力を合わせて生活しています。酪農家ですから一日たりとも休む事は出来ません。その追われるような生活の中でも、親が子を思い、子が親を思う優しさに包まれている、そんな家族の姿がスクリーンを通して伝わって来ます。

知美さんは、獣医師を目指し、親元を遠く離れた高校に入学し、下宿生活を始めます。彼女の高校生活は、3年間テレビは見ないと決意し、ひたすら猛勉強に明け暮れる日々を送ります。それは、難関の岩手大学農学部獣医学科に一発で合格するためでした。家族の負担で自分は獣医師を目指しているのだから、浪人は許されないと固く決意していたからです。

大学入学試験の日、知美さんに付き添って来た父親が、学校の外で試験が終わるのをじっと待っている、その後姿には、「あれだけ苦労して勉強して来たのだから、合格させてやりたい」という思いがひしひしと伝わって来ます。父親の背中っていいなと、改めて思います。

知美さんが獣医師になる事は、祖母、両親、そして妹たちの夢でもあり、知美さんは、そうした家族の夢をも背負っていたといえるでしょう。そうした家族の夢は、彼女のひた向きの努力を支える力であると同時に、大きな重圧であったに違いありません。

親元で大学受験の結果を伝える電報を見て、合格番号の中に自分の受験番号を見つけた彼女は、顔を覆い、テーブルに突っ伏してしまいます。如何に彼女の背負っていたものが大きかったかが分かります。

この映画のキーワードは「背中」だと、プロデューサーの日笠明彦氏は述べています。その「背中」とは、

「無垢な想いで命を育んだ末に、その命を見送った卒業式の切ない背中」。

「夢を追い、自分を追い込んで受験に挑む頑なな背中」

そして、「白衣に袖を通し他者のために生きる、獣医師としての凜とした背中」と日笠氏は述べていますが、私はそれに、先程も述べた様に「父親の背中」があり、愛情に溢れた「祖母や母親の背中」も加えたいと思います。

少女時代から結婚、出産し、母となった一人の女性の、獣医師になりたいという夢をひたすら追い求め、その志を貫いて生きる姿が、何とも眩しく映ります。

とても静かで、でも充実した1時間半でした。（塾頭：吉田 洋一）